

アグリ | ワーク | ポイント



果樹林産センター 小柳 博明

次年度に向けて準備をしましょう

青島温州が本格的な出荷を迎えています。貯蔵管理を徹底して、適切な時期に出荷できるように心掛けましょう。また樹勢回復や寒害対策を実施し、次年度へつなげていきましょう。

樹勢回復

収穫後、樹勢回復や花芽分化の充実を図ることを目的に、尿素500倍を1週間間隔で2〜3回程度散布してください。マルチ栽培園地では、シート除去後にかん水し、窒素主体の葉面散布を3月まで3回以上実施しましょう。また、秋肥は基準量の半分を収穫後に施肥し、残りの半分を4月下旬〜5月に施用します。樹勢の低下は落葉等の寒害につながってしまうので、積極的に樹勢回復対策をしましょう。

寒害対策

気象が不安定でミカンの樹が低温にさらされることがあるため、寒害対策も必要です。冷気が停滞しやすい場所や風の当たりやすい場所は、寒冷紗やコモで樹を覆います。また、敷きワラなどを土に被せると乾燥防止にもなります。

中晩柑の収穫

1月に入ると中晩柑類も収穫時期となります。【表1】の収穫時期を目安に、果実内容を確認してから収穫を開始しましょう。ただし、寒波が襲来して-3℃以下の低温に長時間さらされると凍害の発生が懸念されるので、早めに収穫するなど対応しましょう。

病害虫防除

冬季のうちに越冬害虫の密度を下げておく事が、後々の防除効果につながります。近年、カイガラムシ類が増加傾向にあるので、マシン油乳剤の散布を行って下さい。マシン油乳剤は、直接害虫にかからないと効果がなないので、丁寧な散布を心掛けましょう。また、降雨により効果が減退するため、5日程度晴天が続くことを確認して散布しましょう。尿素を混用すると樹勢回復にもつながり効果的です。

- ・マシン油乳剤（97%） 60倍（1月上〜中旬）
- カイガラムシ類、ハダニ類

【表1】 主な中晩柑類の収穫の目安

品種名	収穫時期	出荷時期
はるみ	12月下旬～1月下旬	2月上旬～
甘夏	1月中旬～3月上旬	3月上旬～
不知火	2月上旬～2月下旬	3月上旬～
せとか	2月上旬～2月下旬	2月下旬～3月下旬